

管楽合奏は楽しい会？

No.58 “バードと同世代の米独仏の名曲を”

2024年5月25日(土)14時00分開演 深川江戸資料館小劇場

A. バード (米/1856~1923)

「管楽の為の組曲」全4楽章

(Fl)若林/信澤(Ob)山本/楠原(Cl)兼氏/宮下 (Fg)森川/大石 (Hn)中原/萩原

R. シュトラウス (独/1864~1949)

「管楽の為の組曲作品4」全4楽章

(Fl)信澤/若林(Ob)土屋/山本(Cl)兼氏/向山 (Fg)阿部/荒川 (Hn)市原/中原/菅川/萩原(Tb)福井

--- Intermission ---

ラザリ (仏/1867~1944)

「組曲(八重奏曲)」全3楽章

(Fl)信澤(Ob)土屋/楠原(Cl)景山(Fg)大石/阿部 (Hn)中原/市原

A. バード (米/1856~1923)

「管楽の為のセレナード」全4楽章

(Fl)岡添/若林(Ob)楠原/山本/(Cl)景山/宮下 (Fg)大石/荒川 (Hn)菅川/萩原

出演者の簡単なプロフィール(楽器別50音順)

(Cond & MC)森川 一 (もりかわ はしめ)

法政大学入学後ファゴットを始め、菅原暉氏に師事。同校卒業後、東京藝大別科で三田平八郎氏に、その後元ハンブルク州立劇場奏者フリッツ・ヘンカー氏に師事する。フリーの奏者として活動し今日に至る。78年より毎年ソロ及び室内楽の演奏会を開催。他にオケのトレーナー、文筆など多岐に渡る活動を行う。「管楽合奏は楽しい会？」及び「フルスヴァルト合奏団」「森川室内楽」などを主宰。リード製作者としても高い評価を得ており「森川ファゴット&リード倶楽部」を運営している。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人代表

(Fl & Cond)岡添 隆 (おかぞえ たかし) R. シュトラウスを指揮

京都大学音楽部交響楽団でフルート奏者、学生指揮者として活躍する。フルートを佐々木伸浩氏、持田洋氏に、フラウト・トラヴェルソを森本薫氏に師事。普段は某メーカーの会社員として東大の社会連携講座にも駐在し、研究活動を行っている。研究と音楽の二刀流は成り立つ、が信条。アンサンブル・メゾンに所属

(Fl)信澤達也 (のぶさわ たつや)当団アンコール曲の専任編曲者

高校1年のとき隣席の友人の勧めでフルートを始め、磯辺庄平氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て卒業後は東京アマデウス管弦楽団(2009年から継続中/2014年には団長)で活動。鉄鋼メーカーや特許調査機関勤務を経て、2024年3月末日を持ってサラリーマン生活に終止符を打ち、以降は音楽活動に専念する。オケ、管楽合奏(以上フルート)、ビッグバンド(トロンボーン)を軸に活動中。

(Fl)若林剛守 (わかばやし たける)

中学入学時に吹奏楽部のコンサートで聴いた「星条旗よ永遠なれ」のピッコロに憧れ、フルートを始める。ただ、同パートを吹いて目標を見失ったのか、高校時代は帰宅部に。大学入学と同時に東京大学音楽部管弦楽団に入団し、新井カ夫氏に師事。進級するのを忘れるほどのめり込むものの、卒業後は某メーカーに就職し、十余年にわたり東北の某都市にて音楽演奏と無縁の日々を過ごす。もう一生吹かない気がしていたが、東京転勤を機に、会社の大先輩に誘われて活動を再開。現在は東京アマデウス管弦楽団に所属。

(Ob & Cor Ig.)楠原千佳子 (くすはら ちかこ)

中学からオーボエを始め、藤原勲氏に師事。東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団及びアンサンブル・メゾンに所属。大学~大学院を通して、コンクリート相手の研究で手がガラガラした時期もあったが、現在は少し手にやさしい社会人となった。

(Ob)土屋英晃 (つちや ひであき)

東京都出身。14歳よりオーボエを始める。桐朋学園大学音楽学部、同卒業演奏会出演。同大研究科修了。第12回別府アルゲリッチ音楽祭、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン2011にオーケストラメンバーとして出演。2009年、市川市文化振興財団第22回新人演奏家コンクール管楽器部門で優秀賞を受け新人演奏会に出演するなど同財団主催の演奏会に多数出演。コンセル・ヴィヴァン第29回新人オーディション合格し優秀賞を得る。オーボエを藤村理子、宮本文昭、嶋崎耕三、浦丈彦の各氏に、また室内楽を白尾彰、岡本正之の各氏に師事。洗足学園ニューフィルハーモニック管弦楽団、洗足学園音楽大学演奏要員を経て、現在はensemble le creuset、市川文化振興財団フレッシュアーティストバンクに所属、柏市音楽家協会会員。

(Ob & Cor Ig.)山本悦子 (やまもと えつこ)

川崎市出身。中学校の吹奏楽部でオーボエを始め、専修大学フィルハーモニー管弦楽団でオーケストラを始める。現在は大田区と葛飾区のオーケストラに所属。勤務先の大学病院では広報の担当をしている。自他ともに認める無類のパンダ好きで、シャンシャンとレイレイの名付け親の一人である。

(Cl & Cond)景山賢嗣 (かげやま けんじ) バードの組曲を指揮

東京大学音楽部管弦楽団を経て、現在は東京アマデウス管弦楽団、ダングダーク管弦楽団に所属。これまでにクラリネットを平林邦男、兼氏規雄の両氏に師事。平日は大手情報通信企業にてシステムエンジニアとして勤務している。某コンビニATMの取引中継オンラインシステムを担当。これからの管楽合奏は楽しい会?を担うメンバーの一人として、指揮者も兼任する。

(Cl)兼氏規雄(かねうじ のりお)

東京藝術大学附属高校を経て同大学卒業。ミュンヘン国立音楽大学留学。NHK洋楽オーディション合格。NHK「午後のリサイタル」等に出演。水戸芸術館「公募企画シリーズ」の第1回出演者に選出されリサイタルを開催。08年、東京オペラシティでのリサイタルについて、「音楽の友」誌上で絶賛される。水戸芸術館主催の「茨城の名手・名歌手たち」オーディション審査員、「茨城の演奏家による演奏会企画」選考委員、茨城県の新人演奏会出演オーディション審査員、新人賞選考委員。また、日本クラシック音楽コンクールの全国大会木管楽器部門審査員も務める。現在、上野学園大学音楽学部、茨城大学教育学部、大東文化大学文学部講師、水戸ソリスト代表。フルスヴァルト合奏団同人

(Cl)宮下節子(みやした せつこ)

学生時代は東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その後、名古屋市室内管弦楽団を経て、東京アマデウス管弦楽団で長く演奏した。半世紀近くにわたリクラリネットを平林邦男氏に師事。公務員を定年退職した後は、少しずつ家族、音楽との時間が増えてきている。

(Cl)向山尚志(むこうやま たかし)

12歳よりクラリネットを始める。東京大学入学と同時に音楽部管弦楽団に所属、この間にクラリネットを故・浜中浩一氏ほかに師事。1974~2003年まで東京アマデウス管弦楽団に所属。2002~03年に当会に参加後、仕事の都合で東京を離れたが、2017年の復帰して以降は全て参加している。

(Fg)阿部憲一(あべ けんいち)

京都大学交響楽団で活躍する。ファゴットを光永武夫氏、森正彦氏、日名弘見氏に師事。現在は東京アマデウス管弦楽団、アンサンブル・メゾンで演奏活動。大手化学会社に42年勤務し、2022年に退職。音楽を中心に、毎日日曜の生活が始まった。ボケ防止と、健康寿命を延ばすため、体力と筋力の強化も課題。忙しくなりそうである。ファゴット演奏者倶楽部設立世話人

(Fg)荒川裕紀(あらかわ ひろき) 初参加!

京都大学交響楽団で活躍する。阿部、大石両氏の後輩にあたる。ゼネコンで鉄筋コンクリート構造物の設計を生業としている。最近趣味と実益を兼ねたインフラツーリズムにハマっている。技術士資格取得のため勉強中

(Fg)大石龍巳(おおいし たつみ)

京都大学交響楽団で活躍する。阿部氏の後輩にあたる。現在はアンサンブル・メゾン、管楽合奏は楽しい会?で演奏活動中。本業は横浜の鉄道会社に勤務し、みなとヨコハマの魅力を発信中。エキゾチックな港町横浜に是非お出かけください。

(Hn)市原秀紀(いちばら ひでき)

東京大学音楽部管弦楽団で活動し、その間故・伊藤泰世氏に師事。博士課程修了後紆余曲折を経て現在は高分子の研究開発で忙殺されつつ、日曜音楽家としてホルンを嗜む。現在は脇屋俊介、井上華の両氏に師事しながら東京アマデウス管弦楽団を中心に大編成のオーケストラで活動。それ以外にもアマデウスのメンバーと定期的に木管五重奏の演奏会を開いたり、ホルンアンサンブル”Strudel Hornisten”を主宰している。

(Hn)中原史生(なかはら ふみお)

京都大学交響楽団に籍中にホルンを小山亮氏に師事。大学院在学時に演奏活動から離れるも、就職を機に復帰。現在はアンサンブル・メゾン、茨城交響楽団で活動中。普段は海洋動物学が専門の大学教員をしており、唇の日焼け対策に苦労している。

(Hn)萩原裕人(はぎわら ひろと)

中学でホルンと出会い、中高大と学生時代オーケストラで活動。社会人となってからも東京、名古屋、ニューヨークの各地でオーケストラ団体等に参加。現在は東京アマデウス管弦楽団、プラスアンサンブルセレスト等を中心に活動。楽器を始めて20余年、キレのある演奏を目指して精進中。

(Hn)皆川理恵(みながわ りえ)

9歳よりホルンを始める。東京音楽大学音楽学部ホルン科卒業。守山光三氏、冨成裕一氏、湯川研一氏に師事。木管五重奏団アンサンブル・アクアのメンバー。ヤマノミュージックサロン柏 講師。またフリー奏者としても活動中

(Tba)福井晴隆(ふくい はるとか) 初参加!

チューバを9歳から始め、安元弘行氏、次田心平氏に師事。筑波大学管弦楽団を経て、都内のアマチュアオーケストラを中心に活動中。誘いがあれば拒まないスタイルでこれまでに20以上のオーケストラにエキストラとして出演。チューバ四重奏団TX Quartetを主宰し、今秋(2024年)には初となる単独公演を企画中。

本日の企画の中心となるバードはアメリカの作曲家ですが、ドイツ(ベルリン)に長く住みこの地で客死しています。生まれはマサチューセッツ州ケンブリッジ(併合前のベルモント)で、オルガンと作曲をベルリンで学びました。19世紀から20世紀初頭にかけてアメリカ人の作曲家は少ないのですが、その中の一人です。管楽の為の組曲は代表作の一つとされています。加えてセレナードも素晴らしい作品で、管楽器奏者にとっては大きな宝と言えるでしょう。綺麗なメロディーと和声、楽しいリズムが構成する音楽は演奏する者を飽きさせません。我々の演奏を聴いて下さる皆さんが、同様の感想を持たれるなら今日の演奏会は成功だと思えます。そうなる様に努めますので、何卒最後までお付き合いの程、宜しく願い致します。

演奏会の感想など宜しければお聞かせ下さい。mail:heckelfg@infoseek.jp

次回は2025年5月31日(土)14時開演 深川江戸資料館小劇場